

健康と光線

皮膚結核に対する

日光療法 ロリエ博士

日光療法は日光を直接皮膚に当てますので、皮膚病に対して何らかの影響を与えるであろうことは想像に難くありません。その上、この治療が有効か無効かの判定は、目で見て確かめることが出来ます。これらの点から、日光療法の先覚者が各種の皮膚病を対象に、相当の効果を期待して、日光療法を行ったのは蓋し当然のことでしょう。

日光療法の碩学、ロリエ博士は、一九世紀末から二十世紀初頭にかけて、格別有効な治療法のなかった皮膚結核、例えば尋常性狼瘡、腺病性皮膚炎、バザン氏紅斑などに日光療法を行った結果について、長期に続けられれば必ず改善すると述べた上で、患者を救う道は日光療法しかない」とまで極言しました。

光線療法の父

ニールス・フィンゼン博士

光線療法の始祖と言われるニールス・フィンゼン博士は、カーボンアーク灯の発明者であると共に、自身で発明したカーボンアーク灯を使って皮膚結核、

特に尋常性狼瘡の治療に大いなる成果を挙げ、一九〇三年にノベル医学生理学賞を授与された方です。

ニールス・フィンゼン博士は皮膚結核に対する光線的作用機序について、次の三項目を挙げています。

一、透入深達作用
二、殺菌作用
三、反応性炎症を起こさしめる作用(動脈充血)

博士は中でも光線照射で皮膚に起こる反応性炎症を最も重視し、これにより結核病巣組織が結核菌に対する抵抗力を回復し、全身照射で一般状態が佳良になることと相まって、病巣の治癒機転を促すと述べています。

加えて光線には、どんな痒みでも止める作用があるので、痒みを伴う多くの皮膚病の治療に応用できることも強調しました。

陽性反応について

光線照射時、皮膚に肉眼的に認める一連の変化は反応性炎症の結果です。炎症の程度は光線に対する慣れ、肌の色によっても影響を受けますが、一部の皮膚病で却って皮膚所見が悪化したように見えることがあります。これを陽性反応と呼んでいます。

発行所

〒153 東京都目黒区目黒
4-6-18

サナモア光線協会

年4回発行
会費 年500円
電話 東京(03)
793-5281
712-5322

皮膚科領域に於ける光線療法 —その作用機序について—

サナモア光線協会
サナモア中央診療所

医学博士 宇都宮 光明

述べた上で、「急性湿疹に照射すると、刺激のため却って増悪することあるを以て始めは短時間軽く照射すべし。慢性湿疹を強く照射し、急性湿疹の状態に変化せる場合には緩和なる治療を行い、炎症の消褪に勉めし」と記し、一過性に皮膚所見が悪化した場合の治療法に言及されています。

陽性反応に関連して特に注意しなければならない点は、一部疾患(膠原病等)で病的な光線過敏が知られていることです。これら疾患の中には発疹を伴う場合もありますが、光線は皮膚所見だけでなく全身にも悪影響を及ぼす虞があります。従って、医師から光線に当たらないように指示されている患者には照射してはいけません。

陽性反応を防ぐ手立て

アトピー性皮膚炎や湿疹に光線療法をした際の多少の陽性反応は、光線に光化学反応を起こす固有の特質があることから避け得ない面もあります。しかし、梅津博士も述べているように照射法を工夫することで陽性反応

を軽く済ませることは可能です。サナモア光線療法の場合、治療開始時や患部がじめじめしている急性期には、紫外線と可視線の線量が少ないBカーボンで、患部5分、日に一二回照射し、皮膚に及ぼす直接刺激を少なくします。この治療を二週間続け、皮膚が慣性性を獲得し患部が乾いてきたところで、治療効果が優れ且つ止痒効果も強い紫外線を順次増量するため、カーボンをA、A、A、A、Aと変えたり、照射時間を延長したりします。

この間、必ず基本照射、即ちA、Bカーボンで腹、腰、膝、足裏に各五〜一〇分の照射を併用して、身体全体を光線に慣らすようにします。

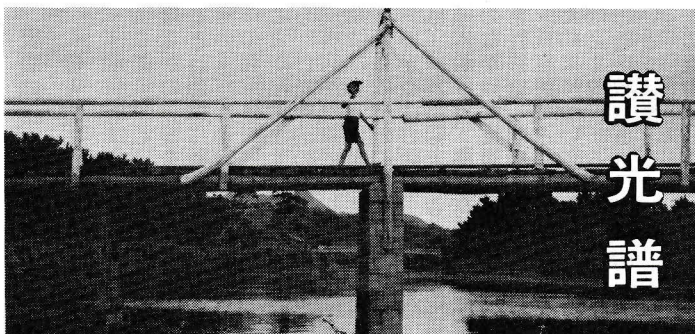
光感作反応を利用した治療法

最後に光線療法の応用面から見た近年の皮膚科の傾向に簡単に触れておきます。その特徴は光感作剤(ソラレンやニユートラル・レッド)を経口的あるいは経皮的に投与し、人工的に強い光化学反応を起こすことで幾つかの皮膚病の治療効果を高めることに成功したことです。

この治療法的作用機序については未解決な点もありますが、光感作反応によって病的な細胞やウイルスの遺伝子が抑えられ、病的な細胞が異常に増殖する乾癬については、昭和五十八年七月一日に発行した健康と光線に、「尋常性乾癬の光線療法」と題して書きましたので参照して下さい。

橋と子供

宇都宮義真撮影



讃光譜



週に二、三回の

日光浴を

丈夫で健康な子供に育てるのには、親は子供に食事を与えるのと同じように日光を浴びさせるようにしなければなりません。いずれの子供も人浴させるように、週に二、三回は日光を浴びさせることが望ましいのです。

然るにともすると、元気な子は家の外を飛びまわって遊びますから、自然に日光を浴び益々丈夫になるのに、病弱な子は親が家に閉じ込めてしまつて、日光を浴び外気に触れる機会を奪うため益々弱い子になり勝ちです。この点については親の注意を喚起する必要があります。

殊に家族に結核性の病気がある場合や、虚弱体質やアレルギー体質など腺病質の素質のある子供では、幼時から絶えず充分な日光を浴びる機会を与えるように努めなければならないので

あり、そうすることが結核、るいれき、狼瘡などになるのを萌芽の内に摘みとり、病気知らずの子供を育てる上で役立つのです。

食物を与えると等しく 光線を与えよ

宇都宮 義真

日光に恵まれ ないソ連

ソ連は、太陽光線に恵まれな

い国柄のためであつてか、光線療法の応用に関して最も進んでいます。

モスクワから汽車で一昼夜半のソ連最化の港町ムルマンスク市（人口三十万）では、太陽光線の不足を補うために全住民が毎年一定時間人工光線照射を受けなければならない規定を設けています。

ソ連では学校や工場で盛んに人工光線浴が行われています。炭坑では鉱夫が労働力を維持し、塵肺を防ぐために必ず光線照射を受けることになっています。

サナモアは人工太陽

サナモアは 人工太陽

これからの私たちの将来の社会環境は、どんな日光から遠ざかる方向にあります。しかし幼い子供たちは堅実な国民になければなりません。そのため

に外気と日光のもとで子供たちを鍛えることを親に課せられた義務と言えましょう。

「光と熱」昭和13年9月1日発行
—食物を与えると等しく日光を与えよ—
「健康と光線」昭和42年1月5日発行
—光線浴の必要—より要約した。

幸いにして私たちの日本の日光照射日数は、日光照射の恩恵を受けるのに充分ですが、もし自然の屋外光線を利用する機会が少ないようなら、サナモアで代用することが出来ます。

最近日本も「黒い霧」に覆われ、大気汚染による呼吸器疾患が問題化しています。この公害病を予防する上で、清純な大気の中で日光浴は効果的ですが大気汚染は太陽光線中の有効成分である紫外線量を低下させてしまします。この点からも良質の人工光線が求められるのです。

サナモアは何処でも何時でも利用出来る小型の人工太陽です。

(人) 類を始め脊椎動物にとつて、ビタミンDがカルシウムの吸収ならびに恒常性保持に重要な役割を果たしていることは既に述べた通りである。中でも鳥類はビタミンDの不足に極端に弱い(鶏と卵に紫外線・昭和54年4月1日参照)。これには鳥類にしかないカルシウム代謝の特異性が大いに関係しているのであるが、同時にビタミンDの重要性を理解する上で示唆に富む点があるのでその大要を概説する。

(年) 間三〇〇個以上の卵を産む鶏の原産地は、日光に恵まれた熱帯地方と言われている。そのため温帯に住む黒人がカル病に罹り易いように、鶏は甚だカル病に罹り易い。鶏だけでなく他の愛玩用の小鳥類も、特に産卵期には少しでも日光が不足すると骨軟化症に罹るのである。この原因として鳥類に見られる産卵現象が重視されているが、翻って人類を始め全ての脊椎動物に於いても、非妊娠時に比べて妊娠中にはビタミンDの必要量が増す事実とも合致する。

(因) に日光の当たらない所でビタミンDを飼料に添加せず鶏の雛を飼うと、カル病のため一ヶ月以内に全部の雛の足が立たなくなる。

(鳥) 類はカル病に罹らないまでも、ビタミンDが不足したた

けで産卵率、孵化率とも甚だしく低下する事実はよく知られている。これは産卵、孵化に十分のビタミンDと多量のカルシウムを必要とすることが関わっているものであるが、ビタミンDについては鳥類が自然環境の中で生息している限り、空を飛び、常々他の動物より多くの日光を浴びていて不足はあり得ないため、必然的にビタミンDの不足に抵抗する力も乏しいことと関連していると思われる。

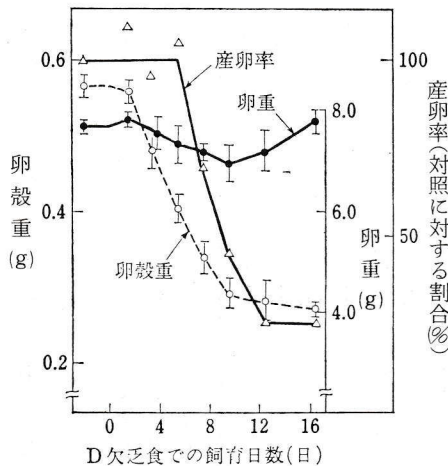
(ま) らず産卵現象に及ぼすビタミンDの影響から考察する。

(鶏) のように、産卵に始り毎日卵を産むのは例外であるが、一般に鳥類は繁殖期に数個の卵を産卵する。この卵の成分は炭酸カルシウムから出来ている。例えば標準サイズの鶏の卵は平均五八gあり、卵殻は約五・七gの炭酸カルシウムから成り、この量は二・三gのカルシウムに相当すると言う。そのため鶏は毎日2g以上のカルシウムを利用して卵を産んでいるのである。これが鳥類が他の脊椎動物にない独特なカルシウム代謝の機構を持つ由縁である。

応用光線療法学

□ ビタミンDの作用 □

その 27



医学博士
宇都宮 光明

(二) こでどの様にして卵が作られるのか、その概略に付いての知識を整理しておく。鳥類の卵は卵黄を除くと、他の成分はすべて輸卵管で合成される。産卵期になると、性ホルモンの働きが活発になり、それに伴って血清蛋白、血清カルシウムの値が上昇すると共に、活性型ビタミンDの合成が著しく昂進する。

て卵殻の石灰化が行われるのである。この際に多量のカルシウムを必要とするが、輸卵管へカルシウムを輸送する上で必須の働きをしているのがビタミンDである。

即ち、鳥類に独特なカルシウム代謝がある訳は、産卵にあたって卵殻を形成しなければならぬからである。事実、鳥類の輸卵管子宮部は産卵期になると

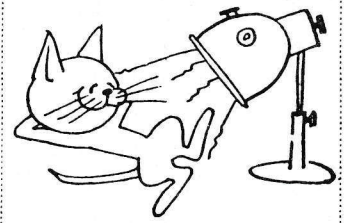
る。これら一連の変化は、排卵後は速やかに低下する。卵の卵黄の合成は、性ホルモンの働きによって肝臓で行われるから、卵巣に運ばれて卵胞内に蓄えられ、排卵によって輸卵管に出る。これが切っ掛けとなって、卵白が性ホルモンの助けを借りて輸卵管膨大部で合成され、輸卵管峡部に運ばれて卵殻膜が作られる。次いで輸卵管子宮部に於いて、約二〇時間かけて

ビタミンDの標的器官になることが明らかにされており、卵殻の形成、石灰化を促すうえで欠くべからざる作用をしているのである。このことは後述する実験成績からも明かである。このように産卵現象に伴うカルシウム代謝には、性ホルモンとビタミンDが深く関わっているのである。

(な) お卵殻を形成する上で必

要なカルシウムを蓄えるために鳥類には理想的なカルシウム貯蔵所がある。それは骨髄の中に骨を作ったカルシウムを貯蔵していることで、骨髄骨と呼ばれている。この骨髄骨の形成にも性ホルモンとビタミンDが重要な役割を演じているが、ビタミンD欠乏状態になると骨髄骨にカルシウムが沈着しなくなる。この骨髄骨は他の脊椎動物の骨と同じく、リン酸カルシウムで出来ているが、その形成と吸収は極めて短時間で行われ、卵殻の形成を助けているのである。

(し) からばビタミンDが欠乏すると産卵や卵殻に及ぼす影響を与えるか、ウズラを用いて実験した高橋らの報告を引用する。その要旨は、飼育されている産卵期のウズラの飼料からカルシウムはそのままビタミンDだけを除くと、二、三日で卵殻質の劣化が始まり卵殻重は日を追って軽くなり、九日後には卵殻中のカルシウムは約50%まで低下する。また産卵率は五、六日目頃より低下し、十日前後で半分になってしまふ。その成績を圖に示した。しかし、このウズラの一日三十一U(〇・七五μg)のビタミンDを与えるとは、5、3日で卵殻中のカルシウムは正常のレベルまで回復し、産卵率も速やかに正常化する。このように産卵に伴って起る生理的变化に対して、ビタミンDは密接に関係しているのである。



☆ 乳ガン

症例 50才 女性

症状 約五年前に左乳房の腫瘤に気付き、その後少しずつ大きくなったが、自覚的に全く症状がなかったため放置していた。ところが二年前、急に腫瘤のところに痛みを感じ、且つ右乳房も少し腫れがみな上、左腋の下から背中の中よりにかけて腫れてきて、腕を上げられなくなった。その上、胃腸の具合も思わしくなかったため病院に受診した。

診察の結果、乳ガンと診断されたが、患者は手術を嫌がって来所した。来所時の左乳房の腫瘍の大きさは、大きいジャガイモ大で、顔色は黒っぽかった。

療法経過 二年前に治療を始めた時点では、左乳房に痛みを訴えていたので、BDカーボンを使用した。照射部位ならびに時間は、患部（腫瘤）は一号集

— 治験例報告 —

光器を使い十分、周辺に触れた小さな「しこり」には二号集光器を使い十分、腹、膝、足裏、腰各五分、背中の腫れた部位に十分、朝夕は自宅、昼は当所で治療した。

その後は患部の状態や全身症状をみながら、照射時間を長くしたり、使用カーボンをAD、CDに変えたりしながら治療を続けている。

現在の状態は、腫れや痛みはなく、腕も自由に上がるようになり、顔色は色白で艶があり、気分はほがらかで小康状態にある。

ウエノ光線療法
上野 貞氏報告
TEL 〇七八三三二一三三八

「愛用者」だより

☆ 急性鼻炎

東京都足立区 峯 加寿美

亡き主人がサナモアをぶらさげて帰ってまいりましてから二十三年になります。階段から落ちた時、ギククリ腰、子供の発熱、抜歯後の痛み、その他何かにつけてサナモアと共に過ごしてきました。家にはサナモアがあるから安心だと言う安堵感は何物にも代えがたい宝です。

先日、急に三八度の熱が三日続き、急性鼻炎との診断。

☆ 腹壁ヘルニア

症例 46才 女性

症状 体型は肥満体で、大きな腹の右横にもう一つ小さな腹が並んでいるように見えた。患者の訴えによれば、これまで色色な治療を受けながら年数を重ねているうちに現在の状態になり、友人の紹介で最後の望みを託して来所したと言う。

治療に先立って、与えられた注意を守り根気よく続けることを約束して貰った。

療法経過 カーボンはAA、AB、AD、BDと組み合わせを変えて交互に使用し、足裏、

治療を始めて三年以上してから、見違えるほどスマートになって自宅に現れた。私には初め

☆ 効き目に

びっくり

広島県 三熊盛人

父が中風になり、病院の治療を受けましたところひどい湿疹になり親戚の勧めでサナモアを求めました。何とか湿疹も治まりましたし、当時、私はサナモアに関心が持てま

鼻はつまると、身体はだるいし、大変弱りました。光線を顔、足裏等にかかけましたら、膿のようなタンが出た後すっきりし、四日目からは熱も下がり大変助かりました。実家や友人にもサナモアをプレゼントしとても喜ばれています。

膝、腰、背、腹、右下腹部（患部）、肩から後頭部に適宜集光器を使い、気持のよい間熱く感じるまで照射。

治療を開始して五日目には腹はやや小さく軟らかになり、気分爽快、望みが出てきた。

患者は遠来のため今後の治療法を指導した上で、月に二、三回は来所することにして自宅での治療に切り替えた。

その後、月日がたつにつれて来所しなくなったが、電話で連絡しながら治療は根気よく続けていた。

治療を始めて三年以上してから、見違えるほどスマートになって自宅に現れた。私には初め

☆ 脳下垂体腫瘍の疑い

症例 56才 女性

症状 頭痛、左眼の視力低下があり、病院で脳下垂体腫瘍の疑いがあると言われ心配していた最中に光線療法の話聞き、紹介されて来所。

療法経過 BDカーボンを使用し、二灯照射した。

まず側臥位にして、一台で両眼の中間に焦点を合わせるようにして顔面に三十分、この間に二台目で肛門、腰に各十五分、以下二台を同時に使い、足裏、腹に各十分、次いで後頭部と頭頂部各十分照射、次は仰臥位にして左耳と右腸骨部、右耳と左腸骨部に各十分、足の三里に五分照射した。

治療経過は良好であったが、途中に念のため行った再診検査では脳下垂体腫瘍は認められなかった。

全経過二カ月で主訴は消え、一般状態にも異常がないので治療を完了した。

（おたよりを募集しています。匿名でも結構です。投稿ください。）

川崎市 東京光線治療院
海渡一三三氏報告
TEL 〇四四一七二二一五〇六七

■グロツトウス・ドレーパ

ーの法則

(光化学の第一法則)

光エネルギーを吸収した皮膚は励起状態となり、励起されていない時にはなかった化学反応を引き起こす能力を備えるようになります。その結果、光のエネルギーを化学エネルギーに転換する光化学反応を起こします。言い換えれば、「光化学反応を起こし得るのは吸収された光のみである」ことが、一八一八年にグロツトウスとドレーパーによって提唱されたことから、グロツトウス・ドレーパーの法則と呼ばれています。

この光化学反応の結果として生体に起こる変化が、次に述べる光生物反応です。

■皮膚における光生物反応

これまでに明らかにされた皮膚に対する光線の最も重要な光生物反応は、光化学的に表皮の7-デヒドロコレステロールから光産物であるビタミンDを生成することです。このように光生物反応は生体にとって不可欠であり、且つ有利に働きますが、時に日光過敏のため不利と思われる皮膚反応を起こすことがあります。

サナモアをお使いの人の中には掛け始めの頃、特に腹部や腰部のような日頃は日に当たらない皮膚の薄い軟らかいところに、痒みや皮膚発疹が出たことで驚

かれる人が居ます。

これらの皮膚傷害の発生機序に付いて述べる前に、皮膚に生理的に起こる防護機構、即ち日焼け現象について説明します。

■日焼けは皮膚の防護機構

光線が皮膚や皮下組織の細胞に直接働きかけた際に、誰にでも見られる最初の変化は皮膚が赤くなることです。

この成因については、光線が毛細血管(小血管)に直接作用して起こす

のか、表皮細胞で作られる光産物によるのか、

双方が関係しているのか、未だ定説はありませんが、何れかの原因で皮膚に炎症(傷害)

を起こしたことに疑問の余地はありません。

但し、ここで強く注意を喚起したい点は、同程度の光線によって皮膚に起こる炎症の強さは、日常光線を浴びている人ほど軽く殆ど苦痛を伴わないのに反し、赤く腫れて熱を持ち、ヒリヒリした痛みが数日間続く強い炎症

日光浴の功罪

皮膚に及ぼす影響 (その1)

— 特に日光過敏について —

を起こすことです。これは常に光線を浴びている人の皮膚には、光線に耐えられる防護層が出来からずです。この点から、普通の人が経験する日焼けによる炎症は、文明が日常生活から光線を遠ざけたことが主因の文明病と言ったことが出来ましょう。

この皮膚の防護機構について説明します。まず皮膚に起こる

太陽光線は主として皮膚を介して生体に作用する

関係から、皮膚に様々な反応を起こします。これまでにも本紙上に、「紫外線と皮膚がんの関連性」(日光浴の功罪・紫外線の皮膚傷害作用 昭和五八年一〇月一日)、「紫外線とシミとの関連性」(日光浴の功罪・サマーファンデーションでメイクアップにご注意 昭和六〇年七月一日)について拙文を掲載し、健康上必要な適度な日光浴には通常は弊害のないことを記述しました。

しかし、屋外の自然光であれ人工光線(サナモア)であれ、光線照射をした後に、一過性の皮膚発疹や痒みを起こす人を時たま経験します。この点に関して、光線によって起こる皮膚の生理的な反応について述べると共に、皮膚発疹や痒みを伴う病理的な皮膚反応としての日光過敏の問題について概説します。

変化は、初期の炎症が鎮まるのに連れて色素が増え、黒っぽく見えるようになってきます。この色素沈着を起こす成因の中で最も重要な機構は、メラニン細胞でのメラニン色素の合成が高まり、表皮のケラチン細胞がメラニン色素を取り込むことです。それと同時に皮膚の細胞分裂は著しく昂進して表皮層を厚くす

ることによって防護層を形成します。これら一連の防護機構は誰にでも生まれながらに備わっており、光生物反応を必要以上に起こさないようにすると共に、光線による組織傷害を防ぐように働きます。

■光線(日光)過敏症

著者は常々述べている通り、

太陽光線は主として皮膚を介して生体に作用する

関係から、皮膚に様々な反応を起こします。これまでにも本紙上に、「紫外線と皮膚がんの関連性」(日光浴の功罪・紫外線の皮膚傷害作用 昭和五八年一〇月一日)、「紫外線とシミとの関連性」(日光浴の功罪・サマーファンデーションでメイクアップにご注意 昭和六〇年七月一日)について拙文を掲載し、健康上必要な適度な日光浴には通常は弊害のないことを記述しました。

しかし、屋外の自然光であれ人工光線(サナモア)であれ、光線照射をした後に、一過性の皮膚発疹や痒みを起こす人を時たま経験します。この点に関して、光線によって起こる皮膚の生理的な反応について述べると共に、皮膚発疹や痒みを伴う病理的な皮膚反応としての日光過敏の問題について概説します。

変化は、初期の炎症が鎮まるのに連れて色素が増え、黒っぽく見えるようになってきます。この色素沈着を起こす成因の中で最も重要な機構は、メラニン細胞でのメラニン色素の合成が高まり、表皮のケラチン細胞がメラニン色素を取り込むことです。それと同時に皮膚の細胞分裂は著しく昂進して表皮層を厚くす

ることによって防護層を形成します。これら一連の防護機構は誰にでも生まれながらに備わっており、光生物反応を必要以上に起こさないようにすると共に、光線による組織傷害を防ぐように働きます。

サナモア中央診療所

医学博士 宇都宮 光明

光線照射が直接原因に成る場合と悪化因子として作用する場合とがあります。

次にこれまでの研究報告ならびに著者の経験から、便宜的に光線過敏症を以下のごとく分類し、これに添って説明しますが、紙面の関係上「薬剤性日光皮膚炎」の一部と「光線照射が悪化因子として作用する場合」については次号に掲載します。

1. 日光皮膚炎
2. 日光蕁麻疹
3. 薬剤性日光皮膚炎(薬剤性光線過敏症)

(一) 光線照射が原因に成る場合

光線照射が悪化因子として作用する場合

光線増悪性疾患(遺伝性疾患を含む)

日光皮膚炎(光線皮膚炎)

前述の日焼けも広い意味では日光皮膚炎に含まれるように、最もありふれた日光過敏症疾患です。主な皮膚症状は、夏の海水浴で急に直射日光に当たった際に見られる所見、即ち照射後二〜六時間経つと境界比較鮮明に赤くなり(紅斑)、そこに小さなぶつぶつが(丘疹)、時に小さな水ぶくれ(小水疱)になったり、ただれ(糜爛)たりします。これらの皮膚所見は二〜三日すると色素沈着を残して良くなりますが、治り際に皮膚はぼろぼろむけ(落屑)ます。日光皮膚炎は個体の素因と関

(五頁よりつづく)

係なく紫外線によって生じます。原因が解明されていない上、皮膚所見以外には検査成績にも特徴を欠くため、研究者によって様様な病名が付けられています。この点を考慮して、著者は日光照射によって発症する皮膚症状を包括する病名と考えています。なおサナモア光線療法でも、極稀に皮膚炎を起こす人がおります。

さて日光皮膚炎の治療ですが、原因は光線ですから、よしんば人工光線は避けるとしても、自然の太陽日光は暗室にでも入らない限り完全に遮断することは不可能です。これに反し、サナモア光線療法を通じての経験では、紫外線量の少ない光線で徐々に皮膚を慣らすことにより皮膚に防護層を作ると皮膚炎を起こさなくなります。因にBrylとDavisは、ソラーレン(光感作物質)を経口的に投与してから日光照射量を次第に増量して、皮膚炎の予防や治療に良好な成績を報告していますが、色素沈着、角質の増加など皮膚の光線に対する防護層が症状を軽減すると考えられます。

日光蕁麻疹

一九〇〇年に Metken により初めて報告されてから、文献的には一〇〇例以上の報告がありますが、著者は未だ経験してません。日光蕁麻疹の作用波長は紫外

線と青色光線にありますので、直射日光は基より窓ガラスを通り過ぎた日光でも起こりますが、発症機序は分かっています。発疹は照射後直ちに潜伏期がなく出るのが特徴です。典型例では照射後数分間以内の皮膚露光部に限局した痒みを訴え、次いで膨疹(蕁麻疹)が生じ、時に非照射部にも及びますが、この膨疹は二〇分から数時間持続して消失します。なお蕁麻疹患者血清を正常人に皮内注射することによって受動的に転嫁し得ることから、アレルギー性蕁麻疹とみなされています。

本症は慢性的に自然光に曝されていける部位、例えば顔や手指には抵抗性があり、照射にも耐えるのに対し、光線に当たらない被覆部では容易に蕁麻疹を起こすことが知られています。ラムゼイはこの観察に基づいて、被覆部皮膚に対する人工光源による照射を次第に延長して行えば皮膚が日光に不応性になる、即ち脱感作できることを証明しました。

薬剤性日光皮膚炎

(薬剤性光線過敏症)

薬剤性光線過敏症とは、化学因子(薬、食物、化粧品、石けん等)と光線(物理因子)の共同作用によって生じる皮膚反応で、単独では異常反応(皮膚炎)

を惹起しません。作用波長は紫外線と可視線です。皮疹は紅斑様から湿疹様まで多彩で、露光部だけでなく被覆部にも生じます。

本症は発症機序から光毒性と光アレルギー性に分けられます。光毒性反応とは個体の光線感受性を高める光感作物質(例えば皮膚科で使われるソラーレン)を投与した際に見られる皮膚反応です。それ故、比較的高い頻度で起こります。一方、アレルギー性反応は光過敏物質を持つ個体に投与された薬剤が、それ自体は光感作物質でないのに、光化学反応を起こして抗原となり、一定の潜伏期を経て抗体を形成する結果、光アレルギー性反応を起こす場合です。従って光毒性に比べると頻度は非常に低くなります。

光線過敏を起こす原因薬剤については次号に詳しく述べますが、高圧利尿剤、血糖降下剤、精神安定剤、サルファ剤、抗生物質、化粧品、薬用石けん、シャンプー等、日常生活と深く関わっています。加えて、窓越しの日光でも起こすことから、患者の生活から原因になる作用波長を除いて、患者と光線を完全に遮断することはどうしても不可能です。

これらの点から治療に際して最も必要なのは、光感作物質や原因薬剤を調べ排除することです。その為にも一通りの知識を持つことが大切です。

(以下次号)



サナモア光線協会

趣意書

天地創造の昔から、真の光、即ち太陽光線は、私たちに限らない恩恵を与えています。サナモア光線療法は、この太陽光線の健康増進、疾病予防および治療効果を利用した治療法です。従って、目に見える可視光線だけでなく、目には見えないが無くてはならない紫外線や赤外線を目的に応じて適切に放射しなければなりません。

このサナモア愛用者を以て、光線療法の研究を行うと共に、啓蒙普及活動を行うためサナモア光線協会を設立しました。サナモア光線協会は、設立の趣旨に賛同戴いた会員にて構成し、季刊紙「健康と光線」を発行します。

サナモア光線協会

医学博士 宇都宮 光明

協会では、会員を募集しております。
入会希望者は、左記宛御申込み下さい。

〒153 東京都目黒区目黒4-6-18

サナモア光線協会 TEL(03)七九三-五二八二
(七二一-五三二二)

(本紙の無断転用を禁止します。)